

舊世界方面で *Zamites paleocenicus* (Belgium 産), *Ceratozamites vicetinus* (Italy 産), *Cycas Fujiana* (九州産), *Anomozamites Muellieri* (Australia 産) の四種、新世界方面では、*Ceratozamia Wrightii*, *Dioon inopinus*, *Dioon praespinulosum* (以上三種 Alaska 産), *Zamia tennesseana* (Tennessee 産), *Zamia Mississippensis* (Mississippi 産), *Zamia wilcoxensis* (Louisiana 産), *Zamia collazoensis* (Port Rico 産), *Zamia Noblei* (Port Rico 産), *Zamia sp.* (Colombia 産), *Zamia australis* (Argentina 産) の十種である、新第三紀 (Neogene) では舊世界方面で *Zamiophyllum samblense* (獨逸産), *Zamites tertiarus* (瑞西産), *Zamites Raczkieviczii* (Hungary? 産), *Zamites epibius* (佛蘭西産), *Zamiostrobus Saportanus* (佛國産), *Bucklandia niersteinensis* (獨逸産), *Cycadites Escherii* (瑞西産), *Ceratozamia Hoffmanni* (Austria 産), *Encephalartos Gorceixianus* (Greece 産), の九種、新世界方面では a *Cycad* (California 産), *Zamia praecedens* (Brazil 産), *Zamia tertiaria* (Chile 産) の三種にすぎない。

如此第三紀の終りに近く新舊兩世界の双方に残留する部屬も特異性を呈し來り、現世に於ては九屬九十四種を残すのみになつた、新世界にありては *Zamia* の三十種が北緯三十一度より南緯二十二度の間に分布し、舊世界の *Cycas* が二十種で北緯三十五度より南緯三十五度の間に分布するのが最大で、次は Australia に分布する *Macrozamia* は十五種ある、其他は皆僅少の種類を含むものゝみで中には絶滅に瀕してゐるものもある、即ち、新世界では *Dioon* 四種、*Ceratozamia* 六種が共に Mexico に、*Microcycas* 一種が Cuba に産し、舊世界では *Bowenia* 二種が Australia に、*Encephalartos* (= *Encephalartos*) 十五種、*Stangeria* (= *Stangeria*) 一種が共に亞弗利加に分布するのみである。

菊科植物雜錄 I

北村四郎

世界各地の交通が頻繁となり盛んに外國の雜草が輸入される、就中菊科植物ははげしい様である。やつぱりこれ等の植物も今後我が國植物誌の附屬物として取り扱はれねばならない、そして勿論固有のものと明瞭に區別されねばならぬ。何時頃入つたかを知るよすがとして見附け次第記録するのも無意義ではあるまいと思ふ。

1) *Tridax produnibens* L. Sp. Pl. (1753) p. 900; DC., Prodr. Pl. V (1836) p. 679; HOOKER, Fl. Br. Ind. III (1882) p. 311; LECOMTE, Fl. génér. Indo-chine LI (1924) p. 609; RIDLEY, Fl. Malay Peninsula II (1923) p. 186.

NOM. JAP. KOTOBUKIGIKU (Y. SHIMADA).

Hab. Formosa: Prov. Taichū: Innin, Higashiyama (24 III 1930 Y. SHIMADA n. 4395 B.), Prov. Takao: (13 II 1932 S. KITAMURA F-781).

和名コトブキギクは島田彌市氏が附けられた。高雄の壽山からとられたものである。尙コトブキギク屬は我が國には新しいけれども上記の文獻でもわかる様に古くから熱帯亞細亞に廣く分布してゐるが熱帯亞米利加の原産である。高雄には街の中にも溝のほとりそれから鐵道線路壽山なんかが多い。一寸ハマグルマに似た姿で葉には毛がべとべとに生えてゐる。

2) *Galinsoga parviflora* CAVANILLES, Icones et descriptiones plantarum III (1794) p. 41 t. 281; DC., Prodr. Pl. V (1836) p. 677; REICHENBACH, Ic. Fl. Germ. XVI (1853) 983; HEGI, Ill. Fl. Mittel-Eur. VI (1915) 524; BRITTON & BROWN, Ill. Fl. N. States & Canada ed. 2 III (1913) 502.

NOM. JAP. KOGOMEGIKU. (nov.)

Hab. Hondo: Prov. Settsu. Mikage (S. KURIYAMA).

コゴメギクと云ふ名はあまりはでない花なのでつけた。歐洲には古くから輸入され度々圖説もされてゐる。原産は熱帯亞米利加だが日本へはどつちから來たのか不明だ。姿はヌマダイコンの出來の悪いといつたところである。

3) *Gnaphalium purpureum* L., Sp. Pl. (1753) p. 854; MART., Fl. Bras. VII II 124 t. 41; BENTH., Fl. Hongkong. p. 188; BRITTON & BROWN, Ill. Fl. N. States & Canada ed. 2 III (1913) p. 456 fig. 4414.

NOM. JAP. TACHI-CHICHIKOGUSA.

Hab. Hondo: Prov. Kii: Wakayama (V 1918 N. UI).

タチチコグサは古く香港にも入り大正七年には我が國でも採集されてゐる。原産地は亞米利加のバーヂニヤ、ペンシルベニヤ、テキサス、メキシコなどである。田代善太郎氏は和泉の堺で採集せられてゐる。

4) *Soliva anthemifolia* R. BR. in Trans. Linn. Soc. XII (1817) 102; DC., Prodr. VI (1837) p. 142; MART., Fl. Bras. VI III (1884) 295 t. 81.

シマトキンサウは植物總覽第一版九十九頁にも既に知られてゐる。島田彌市氏は最近十年來見かけると云つて居られた。兎に角臺灣では恐ろしくべたべたと生えてゐる。畑地は云ふまでもなく道路などにもある。九州では明治四十三年七月九日田代善太郎氏は長崎で採集され明治四十五年六月五日玉木靖一氏は耶馬溪で採られてゐる。原産地は南亞米利加、濠州である。

5) *Soliva sessilis* RUIZ et PAV. Prodr., Peruv. (1794) p. 113 t. 24; DC., Prodr. VI (1837) p. 143; MART. Fl., Bras. VI III (1884) 294 t. 81.

NOM. JAP. MERIKENTOKINSO (nov.)

Hab. Hondo: Prov. Kii: Nishimurogun, Susami (2 XI 1930 S. SAKAGUCHI) introd.

これは南亞米利加の原産である。メリケントキンサウの和名をつける。果實の形が頗る變つてゐる、鳥が飛んでゐる様な姿で面白い、誰か知らんがよく運んでくれたものだ。

6) *Aster uovi-belgii* L., Sp. Pl. (1753) p. 877; BRITTON & BROWN, Ill. Fl. N. States & Canada ed. 2 III (1913) p. 421 fig. 4320; BONNIER, Fl. compl. France, Suisse et Belgique V p. 73 Pl. 278.

NOM. JAP. MERIKENKONGIKU (nov.)

Hab. Yezo: Prov. Nemuro: Nishiwada propæ Nemuro (10-11 IX 1931 J. OHWI), Prov. Oshima: (H. SATO).

北亞米利加原産の一丈シツクな植物である。メリケンコンギクと名附ける。歐洲には既に十八世紀以來入り込み佛蘭西では Aster de la Nouvelle-Belgique, 英國では New-York-starwort, 獨逸では Neubelgienaster とか Herbstaster とか Herbst-Sternblume, 亞米利加では New York Aster と云ふ。

7) *Aster subulatus* MICHX. Fl. Por. Amer. II (1820) p. 111; BRITTON & BROWN, Ill. Fl. N. States & Canada ed. 2 III (1913) p. 433 fig. 4356; YAMAMOTO, in Bot. Mag. Tokyo (1926) p. 31; MAKINO, in Journ. Jap. Bot. III (1926) p. 32.

NOM. JAP. HAHAKIGIKU (簪菊) (YAMAMOTO), HÔKI-GIKU (MAKINO).

Hab: Formosa: Prov. Shinchiku: Chûrekigun, Chureki (VIII 1931 Y. SHIMADA n. 4350 B.)

ハハキギクは大正十五年牧野博士、山本由松氏により前後して報ぜられた北米原産の植物である。島田彌市氏は臺灣にこの植物を採集された。内地では其の後なかなかの發展で鹽田健藏氏は昭和五年十月十五日美濃多治見町で採集され杉野辰雄氏は昭和四年九月二十五日肥後長洲海岸で發見、鍋島與市氏は筑前二日市、小生は近江堅田で五年來自生してゐるのを見てゐる。簪菊は牧野氏の命名ださうである。

大陸の植物採集旅行に必要な旅装と 輕便なる腊葉乾燥法の紹介

石戸谷 勉

滿洲、蒙古等の大陸の學術探險隊に植物調査班員として参加するときには少くと